

●コナサナギタケ (*Isaria farinos*)



コナサナギタケは、小型の蛾の蛹や幼虫に感染し、地中の菌から子実体を発生します。名古屋市周辺でも比較的多く発見する事が可能で、写真の個体は日進市で採取しました。

●コナサナギタケの繭を切り取ってみると…



コナサナギタケの繭を切り取ってみると、菌糸に覆われた蛹が現れました。蛹の突端から子実体(いわゆる“キノコ”)が伸び、その先端に粉状の胞子(分生子)が形成されていました。

●マダラマルハヒロズゴガの蛹に寄生した*Isaria cateniannulata*



マダラマルハヒロズゴガの幼虫は鼓型の蓑を形成し、蓑の内部で蛹まで成長します。*Isaria cateniannulata*は蛾の蛹や幼虫に感染し、複数の短い白色の分生子柄束を形成します。マダラマルハヒロズゴガの蛹に感染した個体は初めて見ました。

●セミノハリセンボン(*Isaria takamizusanensis*)



今年名古屋周辺でもセミノハリセンボンを見かけます。写真の個体は、日進市で採取したのですが、八事山や小幡緑地、熱田神宮でもアブラゼミやクマゼミに感染した個体を採取しました。現在、数個体を追培養中です。

●セミノハリセンボンが寄生したカメムシ

●蛹から子実体が生えた昆虫寄生菌



共に日進市で採取したもので、特にカメムシに感染したセミノハリセンボンは名古屋周辺ではなかなかお目に掛れません。今年はセミノハリセンボンが豊作なので、恐らくカメムシに感染した個体も多いと思われます。

●ボーマリア菌の仲間



ゴミムシの仲間に寄生したボーマリア菌



ゾウムシの仲間に寄生したボーマリア菌